

玉露桂取

集

御家

和書門
三三三〇
函架類
二〇册

内閣文庫	
和書類	三三三〇
二〇册	函架
一五函	一四架



内閣文庫	
番號和	33130
冊數	20 (13)
函號	150 83

第三

共二十一



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



玉露叢

玉露叢卷二十六

同月十六日 法皇御取本院御取女院御所岩倉

御幸 同月十七日 知足院後住長谷之小池坊一藪

梅心院ヲ仰付テ

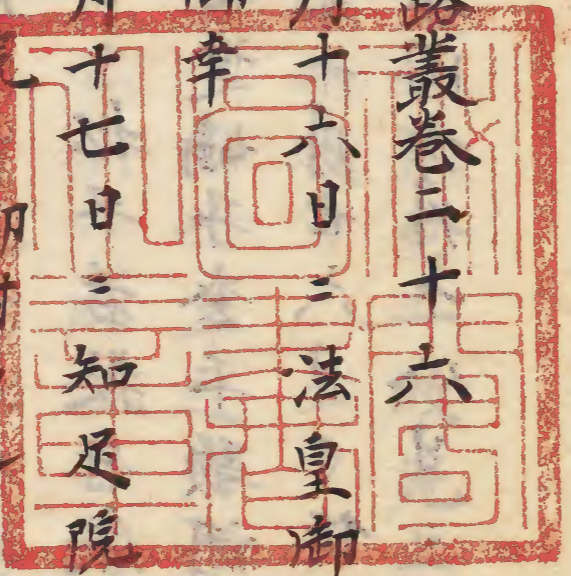
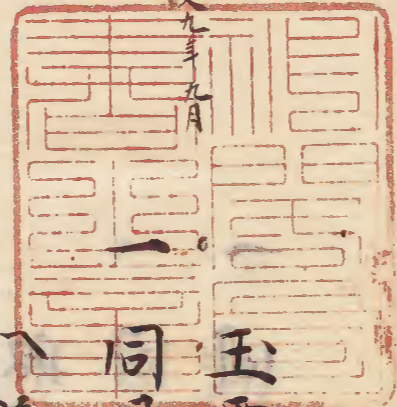
一 同廿四日増上寺入院有テ以後始テ將軍家御成

ニ付テ方丈ハ白銀二百枚時服裕ヲ玉フ兩役者

薰^同村^負ハ白銀十枚ニ時服ニツ宛下ナル

一 同廿五日ニ九鬼長門守遺物ナシテ御刀備前長

十五 牧息九鬼千之助方ヨリ上ル



一 同日ニ堀肥前守遺物トシテ御服指法成寺七代金

一 息堀松之助ヨリ指上七代金

一 同月廿九日ニ藤堂大學頭高次願之通隱居本高

三十二万三千石之内二十七万石嫡子和泉守五

万石次男藤堂佐渡守三千石三男庄次郎是亦願

ニ依テナリ

一 同日ニ松平若校守康信願之通隱居本高五万石

無相違嫡子奎平駿河守相續

一 同年十月廿六日ニ佐野福阿弥死去ス七代金

一 同年閏十月十八日ニ十年以來之御番改有テ皆

勤ニハ黄金五枚虎上勤之輩ハ同三枚以下勤

ニハ二枚以下玉ノ小十人組ハ金子三十兩七兩

十下十人組之内煩十二度追上勤

一 同月廿日ニ御城ニ於テ田碁并ニ象戲ヲ仰付テ

此依テ為見物松平譜岐守并伊掃部頭奎平義作

守登城ニ黒書院ニ於テ郊ノ魁ヨリ始ル本因坊

先置テ三知ト打道策先置テ三哲ト打道策十二首

勝門入先置テ知哲ト打門入四目勝初又宗桂角

ヲ落シテ宗与トナス始ル宗桂勝後ハ宗与勝ニ

右未ノ后魁終ル三知本因坊御城ニ於テ勝負ヲ

力不ノ土屋但馬守宅ニテ抄三知九日勝
 一 同月廿六日ニ禁裡へ御書物色々并伽羅二本女
 院御取へ襪緒五卷ヲ進セラル
 一 同年十一月朔日ニ松平義作守定房京都へ御
 暇ヲ玉フ黄金五十枚時服十御馬一匹ヲ玉フ其
 上侍従ニ任セラル是鷹司教平公姪君来ル廿一
 日ニ入内ニ付テ上便ニ禁裡へ御太刀白銀三百
 枚綿五百把
 女御御方江 白銀三百枚縮緬百卷
 法皇御所江 白銀百枚綿百把

本院御所へ 白銀五十枚綿百把
 女院御所へ 白銀百枚綿百把
 新院御所へ 白銀五十枚綿百把
 女三宮御所へ 縮緬二十卷
 女五宮御所へ 同断
 鷹司攝政へ 白銀百枚時服十
 同大政取へ 同三十枚縮緬世卷
 同政取へ 同断
 長橋房へ 縮緬世卷
 飛鳥井へ 同断

正親町へ

同断

右之通入内ニ付テツカハサレ

禁裡へ

緇緇世卷

女御御方へ

段子拾卷

法皇御所へ

總破士卷

女院御所へ

色糸 行

右入内ニ付テ御臺所ヨリツカハサレ

一同月廿日ニ青山因幡守方九八郎夏大坂ニ於テ

死去

一同廿一日今日御入内首尾能相濟之由

一同日ニ伏見院殿姫君曇花院殿逝去

一同月廿五日ニ駿府町屋火焼火

一同月廿八日ニ注進小笠原内匠頭領内去レ十四

日ニ出火烈風故ニ家数多ク焼失之由然尾城ハ

恙ナシ

一同日ニ將軍家ヨリ金ヲ下シテ外量ヲ改ム

樽屋藤丸衛門司取ル

一同年十二月朔日ニ江府注進去月十六日野洲内

宮之近所出火ニテ家数二百斬余焼失ス然尾内

宮ハ異変ナシトナリ

一 同月三日。甲府宰相殿家臣諏訪若狭守死去
 一 同月九日。松平亀千代御目見。付テ將軍家已之
 下廻御黒書院へ出御。綱之御字折紙ヲ玉フ。從四
 位下ニ叙シ。左衛門權少將ニ任ス。陸奥守ヲ兼ル。御
 太刀包永代金十五枚。綿二百抱。黄金五十枚ヲ陸奥守献
 上。不是元服之為御禮ニ。此時御盃御引渡シ。御靴
 子出ル。御前ニテ石上ラ。御盃陸奥守綱基今者綱村
 頂戴御看ヲ玉フ。且又御小脇指新藤五代金六十枚ヲ玉フ
 一 同御臺所。白銀五十枚。陸奥守加冠之禮儀トシ
 元進上外

一 同祝儀トシテ。於梅近江ハ銀十枚。宛岡野矢野川
 崎工銀五枚。表後三人ハ銀三枚。ヲ遣ス
 一 同月十日。女院御所ヨリ。小林與左衛門ヲ以テ
 歳暮之御祝儀トシ。御小袖并御祈禱之御札卷敷
 ヲ遣テ。御臺所へ。右圍断遣ハ。ナシ
 一 同十一月。黒田万千代御目見。付テ黒谷院へ
 將軍家出御。綱之御字ヲ玉フ。從四位下筑前守ニ
 任ス。御太刀正恒代金七枚。白銀三百枚。御小袖十。松平筑
 前守綱之ヨリ。元服之御祝儀ニ。指上ラ。ル。將軍家
 ヲリ。御脇指左吉貞代金三十枚ヲ玉フ。諸之御作法。陸奥守

細村三同シ

一 同御臺所へ白銀三十枚加冠之身祝儀進上

一 同祝義十三テ白銀十枚ツ、於梅近江へ白銀五

枚ツ、岡野失嶋川崎へ白銀三枚ツ、表役三人

ハツカハス

一 同月十七日ニ松平義作将定房金子五十兩持借

又上京以前ニ七五兩持借都合一万兩ニ

一 同月廿五日ニ佐竹右京大夫藤堂和泉守松平土

佐守侍従ニ任ス

一 同日ニ松平若狭守ニ任ス真田右衛門伊豆守ニ

任ス京極百助備中守ニ任ス戸川玄蕃土佐守ニ

任ス池田兵部豊前守ニ任ス秋月右京出羽守ニ

任ス真田仙千代彈正忠ニ任ス井上大學中雲守

ニ任ス酒井宗女下総守ニ任ス柴田七九郎和泉

守ニ任ス水野主膳越中守ニ任ス戸田三太夫石

見守ニ任ス水野宮内肥前守ニ任ス

右之面々従五位下ニ叙ス

一 同月廿六日ニ尾張殿家司寺尾土佐守ニ任ス従

五位ニ叙ス

一 同日ニ水戸殿家司中山大膳市正ニ任ス従五位

下二叙ス

一寛文十年正月十日ニ紀伊中納言先負御簾中長

福殿先負御ヲ御同道ニテ大奥へ入ラセラル則

長福殿始テ將軍家へ御對顔也此時御服指来目

後珊瑚珠十一水玉二水筒一將軍家ヨリ長福殿

へ進セラル同ク御臺所ヨリ御料紙箱但シカケ

コニ御硯箱アリ双紙三卷但シ京名所盡ニ御觀

人形大鳥色ヲ進セラル

一同十一日ニ昨日長福殿始テ御對顔ニ付テ上使

箱葉羨濃守ヲ以テ九ノ通り遣ハサレ

一時服十三種一荷

紀伊大納言殿へ

一時服七三種一荷

紀伊中納言殿へ

公方家ヨリ右之通り

一時服三

安藤帶刀

一時服三

水野對馬守

一同二

小出權太夫

一同二

長福殿守リ

三上甚太夫

右上便ノ席テヲ以テ下ナル

一御臺所ヨリ御便近江ヲ以テ

一白銀廿枚三種二荷

大納言殿へ

一白銀廿枚縮緬七卷

中納言殿へ

一白銀廿枚三種二荷

同簾中へ

一黄金五枚三種二荷

長福殿へ

一右之通り遺ハサレ

一公方家ヨリ

一銀百枚細瑠七卷履斗蛇一箱紀伊中納言殿簾中へ

一公方家ヨリ下サレ

一時服二

佐野五郎三郎へ

一白銀時服等

惣女中へ

一御臺所ヨリ下サレ

一白銀十枚 依野五郎三郎へ

一時服二 三上甚太夫へ

一白銀巻物等 惣女中へ

一同月十五日 先頃大奥ニ於テ始テ長福殿へ

一御對顔三付尤ノ通り献上

一黄金十枚御小袖十

一右八將軍家へ長福殿ヨリ進上

一御小袖五三種二荷

一右八將軍家へ紀伊中納言殿簾中ヨリ進上

一白銀三十枚綿百把

一 右八御臺所へ長福殿ヨリ進上

一 白銀廿枚綿百把

一 右八御臺所へ中納言殿簾中ヨリ進上十リ

一 同月廿二日 水戸少將絶方逝去是疮瘡ニ付テ

一 十リ水戸宰相殿へ稻葉美濃守ヲ以テ御香奠白

銀三百枚進セラル

一 同月廿三日 高松殿へ作事科ナシテ金子二千

一 兩遣八寸此旨ヲ板倉内膳正へ継飛脚ヲ以テ

相達ス

一 同月廿七日 御城ノ女中近江死去

一 二月二日 女中近江死去ニ付テ今日白銀五百

枚并米五百俵大久保出羽守ヲ以テ能勢治光衛

一 門下下ナリ是ナ部御経御執行仰セ付ラルニ

依テ十リ

一 同月三日 松平大隅守先父国元ニ於テ作ル竟

眼肉始テ指上ル

一 同月十日ノ夜戌ノ刻ヨリ山城国竹田村北向ノ

不動堂ノ前相生ノ松焼中同十三日ノ寅ノ后刻

一 焼苗ルは大木ノ由

一 同十日ニ高木主水正死去

一同廿二日注進溝口土佐守政勝在取於テ死去

一同月十三日三世部豊前守御勘定頭願之通役目

御赦免

一同月十四日永井伊賀守一万石ノ御加増都合

三万石ニテ京都所司代ニ仰セ付ラル

一同月十九日水野石見守願ニ依テ水野周防守

弟十兵衛ヲ猶子トス

一昨十八日松平左京大夫頼純ハ与別ニ於テ新

規ニ三万石ヲ玉ノ是紀伊宰相頼宣郷二男也

一同月廿一日鳥井兵部少輔弟鳥井彦次郎ト

宮内ト改メ柳生飛彈守二男柳生又左衛門伊与

守ニ改メ舟越百助等三人ヲ中奥御小姓ニ仰セ

付ラル

一同月水野石見守死去

一同月廿二日堀田備中守ヲ土井能登守同役ニ

仰セ付ラル依テ永井伊賀守勤来リシ御腰物方

御鷹方ノ支配ヲ致スハキトナリ

一同月廿三日水戸少將紀方遺物トシテ御刀九

弘行代金二十五枚同夕御臺所ハ伊勢物詰二条

為册筆

一同月廿六日：建部丹波守事日冬病死依テ跡式ノ儀弟主水ヲ猶子ノ願ニ依テ遺領一萬石相違十ク玉ヲ

一同月廿八日：溝口諱右衛門常良奉行仰セ付ラ
ルニ依テ五百石御加増都合二千五百石共上從五位下ニ叙シ豊前守ニ任ス

一同月晦日：持野探因今度泉涌寺ノ繪盃スルニ依テ銀子五十貫目ヲ玉ヲ

一同年三月朔日：仰セ出テハ向後諸大名ノ留主居ノ面々諸御禮日ニ御城ハ罷出ル丁共主

人登城以後ハ用度十キニ於テハ早速退出ス
ハシト十リ

一同月四日：紀伊大納言頼宣御家来久田玄心友
也子桂ハ小袖ニツ宛テ玉ヲ是ハ先頃大納言殿

ヨリ指上ル渾天儀ヲ右西人毎日罷中仕概ルニ
付テ十リ

一同月六日：永井伊賀守銀十貫目拝借也是京都
ハ引越スニ付テ十リ

一同月八日：大久保加賀守猶子ニ同姓出羽守ヲ
仰セ付テル

一同月九日ニ北条安房守病氣快ク十キニ付テ御
役目御免

一同月十日ニ建部主水継目ノ御禮トシテ御太刀
黄金五枚時服三指上ル

一同夕建部丹波守遺物トシテ小服指尻楸代金七
枚ヲ指上ル

一同同日ニ阿蘭陀人并ニ加美丹ハ御暇ニ付テ小
袖三十ヲ玉ノ同夕通事一人ハ小袖ニヲ玉ヲ

一同月十二日ニ伊澤主水正ニ大久保加賀守跡役
御小姓組番頭ヲ仰セ付ラル

一同月十八日ニ今城侍従唐橋秀方ハ方領百石宛
ヲ玉ノ旨兩傳奏ハ傳ラル

一同日ニ上秋喜平治城下同十八日廿二日兩日米
澤中火侍屋敷町屋片ニ以上二百九十軒余焼失

スルナリ
一同月廿五日ニ宇治ニ於テ中火類火竹田道雲同

勘六祝正久河村宗順堀真翔山田祐竹松原祐竹
山中瀬兵衛等也其外家数百廿四軒焼失ス此刻

石川主殿頭ヨリ家来ヲ遺ハシ防消ス
一同月廿七日ニ溝口土佐守遺領嫡子溝口金助ニ

相違十ク一萬石ヲ玉ノ
一同年四月二日ニ水野監物忠喜城下吧崎町屋ヨ
リ中火町並五町余侍屋敷ニ軒焼失ノ
一同月三日ニ青山因幡守ヨリ鳳凰之御香炉三茶
吉則ノ御鎗ヲ公方家ニ献上同ノ御臺所ノ古今
和哥集伏見院那高築ヲ進上
一同日ニ岡東因廻リヲ仰セ付ラル、面々
安房上総下総下野是白川海道ヨリ東ノ方ノ右
ノ国々ハ大久保甚右衛門松平治郎太史神尾弥
右衛門

一武藏相摸上野常陸下野ノ内是白川海道ヨリ北
ノ方右ノ国々ハ松平与兵衛蔭田八郎九衛門倉
橋長右衛門ナリ

一同月十八日ニ高木主水正跡武高一万石相違十
ク嫡子高木勘々由ニ玉フ

一右同日今度阿蘭陀作りノ船長崎ニ於テ未次平
藏ニ仰セ付ラル、處ニ長崎ヨリ薩戸浮ハ五日
ニ着舟其ヨリ江戸品川浦ハ十日ニ着岸ス是長
崎ニテ八木五百俵宛遣廻リセシ舟ナリ長十十
五間横三間三尺一寸深十八尺一寸也艫六丁立

十月十日之、孤く重テ渡海ノ儀快クハ又々舟敷
仰セ付ラルキ由ニテ右ノ船御舟手頭間宮造酒
之丞天野孫九衛門ニ御預ケナリ
一同月十九日ニ大久保加賀守季任卒去
一同日ニ小笠原彦太夫父安藝跡役ノ御舟手頭ニ
仰セ付ラル

一同月ニ黒川丹波守病氣ニ付テ願フ通大目付役
御免

一同年五月朔日ニ高木勘解由継日ノ御禮ナリ
御太刀目録黄金五枚裕五ツテ献上

一同日ニ高木主水正遺物御服指丸圓弘代金十枚

嬌男高木勘解由ヨリ指上ル

一同月十日ニ松平肥前守死去義作守定房嬌男十

一同夕山岡十兵衛一昨八日ニ死去

一同夕一昨八日井上筑後守息内記死去

一同月十四日ニ牧野佐渡守ヨリ御臺所へ丁子炸

釜田島海糸ヲ献上

一同月十五日ニ松田次郎太夫死去

一同月十六日ニ大世忠四郎ヲ大目付徳山五兵衛
ヲ御勘定頭能勢治九衛門阿部四郎五郎ヲ御普

諸奉行ニ仰セ付ラル

一同月十七日ニ立花飛彈守入道好雪老母死去

一同月十八日ニ新番頭大忠忠四郎跡役ヲ万年作

左衛門ニ仰セ付ラル

一同月廿五日ニ能勢山城守ニ二百俵御加増ヲ玉

ノ是女中近江ノ養子タルニ依テ十リ亦近江ニ

下ナル所ノ百人扶持ヲハ能勢治左衛門室ハ

五十人扶持松平帯刀室ハ五十人扶持ヲ玉ノ是

両室ハ近江娘タルニ依テ十リ

一同月廿六日ニ土井能登守利房ニ御加増五十石

賜ヲ

一同月廿九日ニ北条安房将死去

一同年六月十日ニ甲府宰相殿ハ駿府町奉行岡野

長十郎御目付戸田作右衛門兩人ハ新規ニ三千

俵ヲ賜ヒ御附十リ長十郎本知九百五十石ハ養

子平右衛門ニ讓リ作右衛門本知六百俵ヲハ嫡

子善太夫ニ玉リ公方家ニ勤ム且亦長十郎ハ義

作守ニ任シ作右衛門ハ播磨守ニ任ス後亦伊勢

守ト改ル

一同月十二日ニ弘文院ニ先年仰セ付ラル本朝通

一 鑑出来ニ付テ指上ル

一同月十九日ニ永井伊賀守通鑑奉行ヲ相勤ルニ

依テ御腰物延壽國資代金廿枚様領ス

一同日ニ弘文院御加増二百石ヲ玉ノ都合千百ニ

十石十リ外ニ九十五人扶持ヲ取来ル

一同日ニ白銀百枚時服三林春常同断二人見友光

白銀百枚坂井伯元時服三羽織林春東白銀五十

枚上テ兵衛是ハ八人十リ通鑑ニ手傳ス白銀百枚弘文

院弟子十二人ハ石之通り通鑑出来ニ付テ玉ヲ

一同月廿五日ニ大久保加賀守遺物トシテ御刀備

前友成代金三十五枚葉茶壺古道同ク御臺所ハ

和漢朗詠集上行能筆右ノ通同性出羽守ヨリ指

上ル

一同年七月二日去頃仰セ付ラル開東國廻リノ面

々今度凡兩ニ付テ御延引来年二三月時分ニ遺

ハ升ルハキ由

一同月九日ニ駿府町奉行世野長十郎跡役富永孫

九衛御徒頭富永孫九衛門跡役ヲ曾我權之丞右

之通ニ仰セ付ラル

一同月廿二日ニ佐野圓阿弥福阿弥十改

一同月廿八日：板倉内膳正十同烈ニテ永井伊賀
守参内ヲ十スルニ天盃ヲ賜フ京都所司代前
後始トナリ

一同年八月五日：内藤式部少輔死去

一同月十日：本多内記家来茨木檢梗ニ平家二勺

鈴木土佐坊ヲ仰セ付ラル右岸テ白銀十枚賜服

二檢梗ニ玉ヲ

一同月十三日：智恩院御門跡京都へノ御暇ニ付

テ酒井雅樂頭忠清ヲ以テ白銀三百枚綿二百把

ヲ遺ハサレ

一同時院家覺了院是又御暇ニ付テ銀廿枚并ニ時

服五ツ玉ヲ

一同時坊官岩波少進園民部御家老角田伊織家来

梅津頼母ニ白銀十枚宛テ玉ヲ

一同月廿一日：紅葉山御宮御堂修復中來ニ付テ

東殿山へ阿部豊後守ヲ以テ白銀ヲ玉ヲ

一日光御門跡へ
白銀五百枚
遺ハサレ

二種一荷

一白銀五十枚
凌雲院

一同断
檀那院

一同新

知乐院

一白銀三十枚宛

田覚院

勸理院

一同二十枚宛

吳仙院

東漸院

一同十枚宛

寂教院

寒松院

一同五枚宛

護国院

右五人

一同十枚宛

東丹院

等覚院

林廣院

常德院

一同十枚宛

明玉院

普門院

松林院

一乘院

一同十枚宛

覺成院

双巖院

元登院

泉竜院

一同十枚宛

修禪院

青龍院

福聚院

常賢院

一同十枚宛

顯性院

宝勝院

照心院

大日院

一同十枚宛 妙善院

壽永寺

宝成寺

法泉坊

一同十枚宛 蓮乘院

一銀五枚宛

知樂院代僧六人

一黃金三枚時服二羽織

浅井八郎左衛門

一同新

溝口佐左衛門

一銀七枚時服二

鈴木修理

一同新

木原内匠

一銀十枚宛 紅葉山火之番長 坂半兵衛 梶田六兵衛

一 龜田半左衛門 吉田竹右衛門 石崎九郎左衛門 渡

一 辺源九衛門 柴田金左衛門 高木兵左衛門 以上右

八人入内侍御堂坊主道入宗悦宗与江

一銀子十牧宛御官坊主道入宗悦宗与江

一同五牧宛高也久存宗情入一同十牧御被官大

二吉本加右衛門入

一銀十牧宛山并安藝守園播广守東儀淡路守上左

兵衛多内記東儀大膳山并左衛門伶人以上七人

一鳥目五百貫文八知乐院支配ノ御祈禱令中家并

御盛物坊主下男氏御掃除方等三玉ノ

右ハ去儿十九日ニ紅葉山正遷宮ニ付テ下廿儿

、所十リ

一同時阿部豊後守忠秋是亦紅葉山人御修儀ニ付

テ諸事指圖致スニ依テ御刀信国代金廿五牧ヲ

一玉ノ

一同月廿二日黒川丹波守願ニ依テ隠居領知十八

百石嫡子与兵衛ニ玉ノ

一同日ニ酒井因幡守願ニ依テ隠居領知十五百

石嫡子小平治ニ玉ノ

一同日ニ水野監物城下世崎侍屋敷ヨリ中火町屋

敷并ニヤハキ橋焼失ス

一同月廿六日ニ松平義作守次男敦貞ヲ惣領式ニ

仰也付ラレ

一同月去ル廿三日ニ松平日向身信之城下播州明
石疾風大雨ニ依テ破損所々一矢倉四ヶ所大破
門七ヶ所右同取掘百九十間余倒ル一潰家百軒
給人ヨリ足狂以下マテ一町屋七十八軒潰ル死
人男女十一人一獵船百九十二艘破損右ノ外少
破ノ所ニ夥シク
一同年九月四日ニ松平隼人正 因幡守事 去ル廿八
日召出サレシ御禮ナク今日御太刀馬代ニテ則
御目見

一同月十一日ニ本多義作守忠相願ノ通役儀御免
一大久保右京亮御苗守居本多義作守跡役ヲ仰也
付ラレ

玉露叢卷之十六

一 同月廿七日... 松平某人之... 大久保右京亮... 渡边大隅守... 真御小姓... 御免之由... 江府へ

玉露叢卷之二十七

一 寛文十年九月十三日

渡边大隅守二男渡边右

京中真御小姓渡边半七郎真御小姓二仰七付テ

一 同月十四日

大久保右京亮跡役大御番頭三枝

横津寺御書院番頭三枝横津寺跡役松平監物御

小姓組松平監物跡役酒井壹岐守是ハ唯今テ

一 同月十七日

飛鳥井大納言正親町大納言兩卿願

之通傳奏役去ル十三日二御免之由今日江府へ

申来ル

一同月九日ニ日野大納言中院大納言兩卿去ル十

五日ニ永井伊賀守宅ニテ傳奏職ヲ申渡サル

一同月廿三日ニ松平新太郎光政母儀へ御合力米

千俵ヲ玉フ

一同月同日ト去月廿九日ト右兩度大坂表風雨十

リ取分今廿三日ノ辰下刻ヨリ午ノ刻ニテ甚雨

疾風ニテ大坂御城中ノ小屋並ニ明屋悉ク破損

大分也木津川口四宮嶋川口へ高汐アケ御舟衆

八軒倒ル御船片破損ニ及フ且赤高林又兵衛森

川六左衛門与力四人水主九人次ニ与力ノ召仕

ノ男女水主ノ妻子都合ヲ百廿三人溺死ス尤与

力水主ノ家其外海辺ニ居住ノ民屋等一字モ残

ラス押並テ湮流ノ旨也右ノ烈風強雨高潮上ル

ニ依テ損失スル故ニ高林又兵衛森川六左衛門

ニ金子貳百兩宛与力へ貳拾兩宛同心ニモ七兩

宛并借ナリ

一尼崎へ毛城ノ二ノ丸三ノ丸へ汐水指込ノ由

一同年十月一日ニ北条久太郎願之通隠居領知則

一万石猶子左京實北条右近太夫實子ニ玉フ

一同月七日ニ寛新兵衛尉東筋盜賊改ノ役ヲ仰セ
付ラル

一同月十七日ニ圃基ヲ仰付ラル依テ井伊掃部頭
見物ノ為ニ登城シテ黒書院ニ於テ卯ノ后刻
ヨリ始ル

一 等哲先ヲ置道榮九日勝一門入先ヲ置智哲七日
勝一亦門入先ニテ智哲日打門入二日勝一宗桂
角ヲ落テ宗桂トサス宗桂始メ勝宗与後勝

一同月十九日ニ北条久太郎隠居ノ御禮トシテ御
代備前景光ヲ指上ル

一同月廿三日ニ弘文院事本朝通鑑撰ヘル内九十
人扶持ヲ玉ノ今御書物御用仕舞トイヘトモ右
ノ扶持方其依御頭ケノ由ナリ

一同月廿四日ニ夜ニ入テ御座ノ間ニ於テ岩舟檢
梗斎藤勾當兩人へ平家ニ勺ヲ月見那須与市仰セ付
ラル

一同月廿五日ニ牧野外朔稻葉美濃守外料白銀十枚ヲ玉
ノ是女中園野腫物療治ニ付テ也

一同日ニ御側小姓園部志摩守病者ニ付テ御役儀
御免

一同月廿八日ニ禁中方役人青木遠江守御役御免
 一同日ニ内藤式部遺領五千石養子上野公ニ玉ノ
 一同年十一月四日ニ板倉内膳正重矩江府参上節
 震筆色紙屏風 勅筆ノ折木右ハ禁裡ヨリ御香
 合右ハ女院御所ヨリ内膳正重矩江戸下着ニ付
 テ右之品々ヲ進セラル
 一同月十七日ニ松平豊前守大坂ニ於テ死去
 一同月十八日ニ小濱孫三郎用東ニテ知行替ニ付
 テ御加増千石ヲ玉ノ
 一同月廿四日ニ十利ノ面々三十一ノ公幅ヲ玉

フ直判ハ和尚ハ御朱印ハ西堂御黒印ハ首座ハ
 此ノ通り金地院ハ渡サレ
 一同日ノ晩勢列山田出火家数五千軒余焼失ス
 一同年十二月一日ニ伊澤隼人入道三徳死去
 一同月三日ニ内藤帯刀願ノ通り隐居本高七万石
 嫡子内藤左京亮外ニ新田一万石ニ男遠山主殿
 是亦願ニ依テナリ
 一同日ニ巴田豊前守願ノ通り隐居本高七千石ノ
 内六千石嫡子巴田与三郎後將監改千二百石ニ百石ハ新田
 巴田左太郎ニ玉ノ是亦願ニ依也

一 同日ニ水戸殿城下町屋敷ヨリ出火家数二百七十軒余焼失ス

一 同月七日ニ三洲矢ハキ橋御普請ヲ来年仰セ付ラルヘキ由其節ハ水野監物方ヨリ下奉行ニ家来ヲ出スヘキ由

一 同月十八日ニ松平千松元服ノ御禮トシテ真ノ御太刀吉貞代御小袖二十領白銀三百枚ヲ献上

此時従四位下ニ叙シ侍従ニ任シ阿波守ヲ兼ル且亦御一字ヲ玉ヒ總道ト号ス時ニ御盃ヲ頂戴有テ御服指永安吉代ヲ玉フ

一 同日ニ内藤左京亮家督ノ御禮トシテ御太刀目録黄金二十枚御小袖十ヲ献上ス同ク内藤帯刀

隠居ノ御禮トシテ御太刀御小袖御馬黄金馬代且亦御刀来目光代御葉茶壺ヲ献上ス

一 同日ニ内藤左京亮嫡子五郎七郎下野守始テ御目見ヘ御太刀目録ヲ献上ス

一 同日ニ遠山主殿頭新祭ノ地并領ノ御禮トシテ御太刀目録黄金五枚御小袖三ツ進上

一 同日邕田豊前守隠居ノ御禮トシテ御刀丸國弘代金十枚ヲ進上

一同月十九日ニ紀伊大納言殿御病病ニ依テ御醫
師淡江長悦ヲ遣ハサル則御暇ニ付テ黄金廿牧
小袖ニツラ玉フ

一同月廿二日ニ松前八左衛門ニ五百石御加増是
去ル頃暇夷蜂起ニ付テ骨折ノ由

一同月廿三日ニ大久保玄蕃頭願ノ通り隠居ス本
領五千石ハ猶子大久保四郎左衛門ニ玉フ

一同日ニ毒木彦右衛門御勘定頭ノ役ヲ御免
一同日ニ大久保玄蕃頭隠居ノ御禮トシテ御刀包

利代金七牧五兩ヲ献上ス同夕大久保四郎左衛

門家督ノ御禮トシテ御太刀目錄ヲ献上ス

一同月廿五日ニ大野忠四郎千俵ノ御加増ヲ玉フ

一同月廿六日ニ大森信濃守千俵酒井壹岐守千俵

稲垣市正四百俵太田伯耆守三百俵右ノ通御加

増ヲ玉フ

一同月廿八日ニ小笠原兵助鳥井宮内少輔百俵宛

新規ニ玉フ是中奥御小姓ナリ

一同日ニ柳生又右衛門ニ四百俵新規ニ玉フ

一同月廿九日ニ紀伊黄門倍臣渡边一学諸大夫ニ

仰セ付ラル

同日ニ久世大和守土屋但馬守酒井河内守右ノ
三輩侍從ニ任セラル

一寛文十一年正月九日ニ永井日向守尚清撰列高
槻ニ於テ死去

一同月十日紀伊大納言頼宣郷紀列和哥山ニ於テ
逝去

一同月十二日未ノ刻ニ松平駿河守領知丹波笹山

ニ於テ出火折節烈風ニ付テ侍屋敷九十一軒町
屋二百三十五軒焼失ス

一同月十五日午ノ上刻京都六条中将宅ヨリ出火

強風ニテ公家并ニ御所方役人攻ニ町屋焼失ス
漸ク申ノ上刻ニ鎮ル禁裡院中ハ別条ナシ

一同月廿三日女中近江一周忌ニ付テ香奠トシテ

白銀百枚玉ノ由能勢治左衛門ニ老中ヨリ傳フ

一同月廿五日ニ戸田伊賀守本多長門守兩人寺社
奉行ヲ仰セ付ラル

一同月廿六日役替ヲ被仰付所謂御書院番頭武田
越前守跡役水野越中守御小姓組番頭水野越中
守跡役青山藤右衛門新御番頭青山藤右衛門跡
役神尾市左衛門御徒頭神尾市左衛門跡役安藤

治右衛門御先手頭伏見勘七郎跡役本多左太夫
 一同月廿八日紀州へ上使トシテ松平山城守ヲ遣
 ハサル御香奠白銀千枚ヲ進セラル山城守御暇
 ニ付テ御目見以後黄金廿枚時服五ツ羽織ヲ
 玉フ
 一同年二月五日ニ前田半右衛門ニ千石ノ御加増
 都合二千二百石ニテ禁中御役人青木遠江守跡
 役ヲ仰セ付ラル
 一同ク邑部庄左衛門ニ五百石ノ御加増都合千五
 百石ニテ本院御所御役人中川飛彈守跡役ヲ仰

七付ラル前田半右衛門ハ安藝守ニ任シ國部庄
 左衛門ハ土佐守ニ任ス
 一同月七日ニ阿部豊後守忠秋へ爲上使ト遠山
 半左衛門ヲ以テ篁早御壺ヲ玉フ
 一同月八日ニ紀伊中納言殿御息女光姫君ヲ京都
 ニ於テ逝去是一条大納言殿簾中ナリ
 一同月十日板倉内膳正重矩事一万石御加増ヲ玉
 ヒ都合五万石ニ仰セ付ラル上意ニ曰ク當時
 城地ナシ追テ明城ノ城主ニ仰セ付ラルヘキノ
 旨ト云ク

一同月ニ保福寺へ二百石寺領ヲ奇附シ玉フ
 一同年同月十三日ニ土御門新九郎福壽ヨリ使者
 ヲ以テ例年ノ如ク己ノ日ノ殺ヲ指上ル
 一同月十四日ニ注進シテ曰ク細川越中守總利城
 下肥後熊本去月下旬ニ出火シテ士屋敷足輕町
 并ニ町屋敷都テ家数五百軒ニ及ヒ焼失ス
 一同月今井檢校惣檢校名代トシテ下着是都ニ於
 テ惣檢校ニ屋敷ヲ玉フニヨツテ十リ尤御禮ト
 シテ一束一本ヲ指上ル
 一同月十六日去々年仰セ出カレ國廻リノ六人ヲ

召シ五月下旬ニ弥遣カレヘキ由
 一同月十八日ニ青木遠江守へ耶蘇宗門改メノ役
 并ニ御作事奉行ヲ兼テ仰セ付ラル
 一同月廿日ニ隅田川木母寺へ貳拾石ノ寺領御加
 増ナリ
 一同月廿三日醍醐町屋出火家数六十二軒焼失ス
 一同月廿六日ニ天徳寺ニ於テ高田御方ノ御葬禮
 ナリ
 一同年三月一日ニ將軍家大廣間へ出御阿蘭陀加
 美丹御禮アリ捧上ノ物二十九色ナリ品ヲ畧ス

一同月五日ニ浅野内匠頭長直願ノ通り隐居本高
五万三千五百石之存五万石嫡子浅野宋女正三
千五百石養子浅野内記外ニ新田三千石養子孫
浅野長三郎是亦願ヒニ依テ分知仰セ付ラル
一同月七日保科肥後守城下真及會津出火侍屋敷
并民屋多焼失入城中ハ別条ナシ

一同月十六日注進駿府番所ニ於テ植村志摩守煩
大切ノ由依テ波江長悦ヲ遣ハサル
一同月十九日勢列山田去年出火ニ付テ金子一万
両并借十ヶ年ニ上納仕ルヘキ由桑山丹後守ヘ

仰セ渡サレ

一同月廿日ニ紀伊大納言殿御遺物御掛物塞翁ノ
繪ハ葉階公方家ヘ御硯箱 葛ノ細道御臺所ヘ右
ノ通り黄門ヨリ使者松平九郎左衛門ヲ臣テ指
上ル

一同月廿二日浅野内匠頭長直隐居ノ御禮トシテ
御刀大和ノ包永ヲ献上ス
一同日永井日向守遺物トシテ御刀備後兼光代金
御盃一卷花鳥舜拳筆右之通り同性市正尚明日
リ指上ル

一同月廿三日大御番衆ヲ殿中ニ招キ惣組中大津
 二於テ御切米取来リ候ヘ尺常々願ヒ奉ルニ依
 テ向後ハ二条御城米ヲ下サルヘキ旨ナリ
 一同日大坂御番ノ大番ノ面々當年ヨリ七月代リ
 二仕ル
 一同日去ル正月京都火事ニ付テ門跡方公家衆其
 外類火ノ面々へ金銀ヲ下サル旨京都ニ於テ
 相達スベキ旨永井伊賀守方へ仰セ遺ハサル
 所謂
 銀貳百枚 三宝院 同貳百枚 梶井

金五百兩 轉法輪三条 同貳百兩 油小路大納言
 同貳百兩 四辻大納言 同百五十兩 今城宰相
 同百五十兩 梅園中将 同百五十兩 橋本中将
 同百五十兩 下冷泉少将 同百五十兩 岩倉宰相
 銀三十枚 轉法輪中納言 同三十枚 今城少将
 同三十枚 四辻少将 同百枚 准后
 同断 法花寺 同五十枚 大西坊
 同三十枚 理性院 金三十兩 岩倉友古
 金三十兩 山形右衛門 同二十兩 辻伯春
 同二十兩 辻 因幡 銀十枚 辻 将監

銀十枚 辻左兵衛 金二百九兩 三宅玄蕃

金百拾兩 屋敷半分残り 河原弾正 同八十兩 河原宗清

同八十兩 三宅權之助 同七十五兩 福田藤左工門

同廿五兩 屋敷半分残り 布施左衛門 同拾七兩 屋敷半分残り 宮崎市右工門

同十七兩 長坂新右衛門 同四十五兩 吉見外記

同四十五兩 松室掃部 同百五兩 御臺所衆拾一人

金四百八十兩 伊賀衆十二人 但シ壹人ニ付四十兩宛

金四十五兩 石川半助 同四十五兩 本間宇右工門

金四百十八兩 御臺所衆拾一人

但シ一人ニ付三十八兩宛

金四十五兩 三宅新助 同三百三十三兩 御賄九人

同四十兩 鳥山孫兵衛 但一人ニ付三十七兩宛

同二百兩 本同心十人 同六十兩 坊主三人

但一人ニ付二十兩宛 但一人ニ付二十兩宛

同百九十五兩 御小人十三人 同七十五兩 下男拾人

但一人ニ付十五兩宛 但一人ニ付七兩宛 此存

組頭一人ニ付八十二兩也

金三百三十六兩

但シ一人ニ付

十八兩宛

築田隠岐守組
与力七人

同二百十兩

但シ一人ニ付

七兩宛

同心三十人

金五十兩 矢部主膳

同二十兩

矢部左衛門

同五十兩 原 監物

同五十兩

板田勘解由

金四十兩 伊賀衆二人

松平豊前守組

金三十兩

与力一人

右同人組

金三十兩

同心五人

但シ一人ニ付七兩宛

兎部庄左衛門組

金三十兩

与力一人

右同人組

同三十五兩

同心五人

但シ一人ニ付七兩宛

鈴木淡路守組

同六十兩

与力二人

右同人組半分焼

金十兩

右同組 一人

同百十九兩

右同組 同心十七人

但シ一人ニ付七兩宛

同三兩

右同人組 同心二人

同十五兩

小笠原丹波守組 半燒 与力一人

同三十五兩

同心五人

但シ一人ニ付七兩宛

同心五人

同日右之通り金銀兩玉ノ入共三才士五共三

一同月廿三日ニ大坂加番代リノ事自今以後ハ七

月相替リ申スヘキ旨例年ハ八月始メニ代リ候

ヘ氏其節ハ洪水ノ時分故難儀ニ及フニ付テ也

一同月廿六日巴部龙近石谷五郎右衛門川口源九

衛門大五郎右衛門日根野権十郎以上五人ハ

御目付役仰セ付ラル

一同年四月二日今度御法事ニ付テ女御ノ御方

ヨリ石川壹岐守ヲ遣ハサルトコトニ去月廿二

日ニ孰易来名渡海ノ時難風ニ逢テ壹岐守トモ

ニ上下六人溺死ス
一同月四日尾張殿ヨリ財産トシテ將軍家へ糸縫
二牧屏風一雙御臺所へ御花入ニカカラ御花夕ノ二
ツ献上セララル
一同月大手内櫻田外櫻田馬場先和田倉右ノ御門
番ノ面々西之丸へ向後御成夕リ氏當番ノ面
々番所へ出ルニ及ハス御鷹狩ノ節ハ御番取へ
罷リ出ララルヘキトナリ
一同月六日ニ日光山ニ於テ万部ノ御經始
同日ニ丹羽左京太夫城下奥及二本松士屋敷三

十七軒町屋少々焼失ス
一同月七日ニ上杵喜平治城下奥及米沢出火侍屋
敷七十軒余町屋二百八十軒余焼失ス
一同月八日ニ役目仰セ付ラル、面々小十人番頭
田中孫十郎御鍵奉行榊原左衛門御持弓頭渡辺
半三郎御弓頭寛勘右衛門御鉄炮頭河野源右衛門
御小姓ノ子頭稻垣藤九郎御徒頭藤堂主馬同
断能勢惣十郎同断依野内藏助同断駒木根長右
衛門
一同月廿六日品川式部太捕卒去

一 同月廿七日 今度日光ニ於テ御法事ニ付テ江府
ニ於テ輕罪ノ者 御免ナリ 尤京大坂奈良伏見
依渡長崎ヘモ 繼飛脚ヲ以テ仰セ遣ハサル
一 同年五月六日ニ長崎奉行松平甚三郎跡役ヲハ
牛込忠次工門ニ仰セ付ラル
一 同月十九日 舟藤義作舟死去
一 同月廿六日 關東国廻リ御暇黄金時服羽織等ヲ
絛領ス品ハ畧ス
一 同月廿八日 伊達兵部少輔領知三万石松平陸奥
守高ノ内ニ付テ今度返シ下サレ由

一 同月廿九日 高木權右工門事願ノ通 隠居ス本領
二千三百石ハ養子新兵衛ニ玉フ
一 同月ニ伏見勘七郎願ノ通 隠居本領千石ハ嫡子
勘十郎ニ玉フ
一 同日ニ森川榎津舟領知千石ヲ同性平入子主水
ヘ遺度ヨシ願ヒ依テ仰セ付ラル 主水ハ下總舟
猶子ナリ
一 同年六月二日ニ 四満院殿逝去
一 同月三日ニ 常陸下總ノ舟平賀印幡ノ新田高四
万四千石ハ舟三万四千石ハ舟屋權太夫一万石

八曾根五郎左工門ニ御代官ヲ仰セ付ラル
一同日ニ阿部播摩守家督ノ御禮トシテ御太刀目
録時服十ヲ献上同キ阿部豊後守隠居ノ御禮ト
又御殿指貞宗代金責貝ノ御香合ヲ公方家へ伏
見院ノ哥書并ニ青責貝ノ御食籠ヲ御臺所へ献ス
一同月八日ニ丹羽左京太夫ノ息女松平出雲守へ
警禮調フ
一同月十七日ニ長崎奉行牛込忠左工門事金子千
両并借ス
一同月十八日ニ白檀一本阿蘭陀箱一ツウニコフ

ル一本文字目鑑大小ニツヘワカソノ德利一對
枝珊瑚珠ニツ

右ノ品々日光御宝藏へ納メ玉フ

一同月廿四日ニ撰及多田院甲及意林寺へ寺領寄
附シ玉フ

一同年七月十九日戸田宋女正願ノ通り隠居領知
十万石不殘嫡子左門ニ玉フ

一同月廿一日保科市正死去

一同月廿六日松平大隅守へ上使高木伊勢守ヲ以
テ八木二千俵ヲ玉フ是ハ今度琉球人ヲ江府へ

召連ルニ付テ也

一同月廿八日ニ琉球人松平大隅守屋敷ヨリ登城メ御禮ヲ申上ル

琉球國王書翰ノ文ニ曰ク

謹令呈上一翰候柳去歲菩薩

洲之太守光久奉

釣命而令予副琉球国之爵位曰

茲為奉述賀詞使小臣金武

王子附于光久献上不腆之士冥

候伏冀以諸太老之指南可達

台聽儀所仰候誠惶不宜

寛文十一年五月廿五日

中山王

尚貞判

板倉内膳正殿

土屋但馬守殿

久世大和守殿

稻葉義濃守殿

將軍家己ノ后尅大廣間へ出御上段ニ着御御長

袴ヲ召ス

一中山王ヨリノ士宜

御太刀馬代銀子五十枚

大阜

黒塗青貝
沈金

二面

中央丸卓二本柱二面堆朱賣貝但シ四扇折披賣貝

篋飯 一對賣貝梅ノ折枝

練芭蕉布 三十端 綾芭蕉布 三十端

大平布 百匹 久采綿 百把

泡盛酒 五壺

一金武王子自分ノ献上丸ノ如シ

官香 十箱 香餅香 五箱

練芭蕉布 十端 綾芭蕉布 十端

泡盛酒 二壺

以上

一今度琉球人來朝ニ付テ附キ來ル人ノ名

將軍越來親房 垣本親雲上 稻福親雲上

津波古親雲上 前田親雲上 川上親雲上

宇良親雲上 金城親雲上 新川親雲上

伊計親雲上 平安三親雲上 是ヨリ以下

小姓六人

保榮茂里子

大城里子

思次郎

